

新 栄 だ よ り vol.11



富山の自然、私たちがすべきこと



▲上段：テ・レイケによって完成された常西合口用水。川から直接水を引く取水口を1ヶ所にまとめています
 下段：日本最大の貯砂量の本宮砂防堰堤。洪水で上流から運ばれる大量の土砂をいったん貯え、下流へと穏やかに流します

今年の異常気象による「ゲリラ豪雨」は各地で甚大な被害を起こしています。その度に、富山県はそのような被害が直撃することが少なく、良い地域だ、立山が守ってくれている、と昔から言われています。

しかし、昔の立山連邦とその流域は災害がとても多い地域でした。安政5年（1858年）、常願寺川の水源大鷲山の大崩壊を起源とし、それにより出来た天然ダムが決壊による大土石流を始め再三にわたる大洪水により、常願寺川は我が国固有数の荒廃河川と化しました。地質がもろく、地震や大雨による浸食で出来た立山カルデラから、真川・湯川といった、いくつもの支流を併せて常願寺川となり、富山湾に注いでいます。また、富山県の年間降水量は全国でも上位に位置し、常願寺川は源流から河口までの距離が約56Km、標高差約3,000mを一気に下る日本一の急流河川なのです。このような要因が、富山平野で生活する人々を永らく苦しめてきました。

戦国時代の1581年には常願寺川の大洪水が起こり、大山町馬瀬口から水が溢れ、富山城下を水浸しにしました。水害で苦しむ民衆を助けるため、富山城主の佐々成政は堤防を作りました。大山町馬瀬口・常西用水の川底の石の堤防は「佐々堤」と呼ばれて、現在まで住民に大変感謝されています。

富山県民として、先人の努力を今に伝え、新たな防災意識を高めていきたいと思えます。



▲富山城のお堀の石造りのほとんどは、常願寺川が下流に流した石を使っています。



▲佐々堤と佐々成政

佐々堤は不連続堤防で、川下を守るためにいくつも築られました。人々は昔から常願寺川の洪水に苦しめられてきていたのです。佐々堤も度重なる洪水で大部分が土砂等で埋まってしまう、今では常西用水の水底に堤防の上端をわずかに見ることができるのみです。



治水の歴史

江戸時代、加賀藩は土木費の配分をめぐる、道路の改修を主に考える加賀・能登側と治水に重点をおく越中側との利害の対立が続いていました。



① 富山藩
1639年(寛永16年)、婦負郡と新川郡の一部から富山藩が成立



② 富山県
明治4年7月14日、廃藩置県によって越中の砺波郡、射水郡、新川郡は金沢県となり、婦負郡と新川郡の一部は富山県となる



③ 新潟県
明治4年11月20日、富山県が廃止となり、砺波・婦負・新川3郡で新潟県が誕生



④ 石川県
明治9年4月18日、国の統廃合推進によって、新川県は石川県に合併される



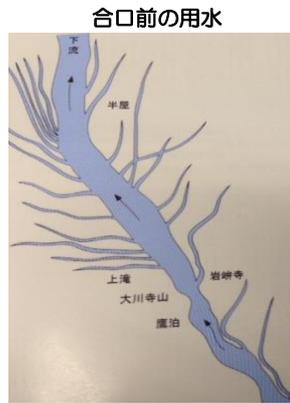
⑤ 分県 富山県 誕生
明治16年5月9日、石川県から分県して富山県が誕生

水害で苦しむ人々を救うため、県民の幸福・安定のため、分県しかないと、新しい富山県をつくらうとする人々の期待を担って分県を国に嘆願した米澤紋三郎(入善町)。「越中国人民の幸福安寧を求むるは唯分県の一事業あるのみ」と連白書にしたため、入江直友と共に国へ嘆願、国から太政官通達を受け、富山県の誕生となります。

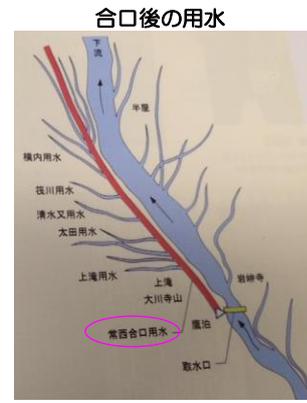
明治時代になり、富山県庁は明治17年1月、常願寺川と庄川の改修工事から富山県の土木事業を開始します。明治24年8月には、第3代森山茂知事が災害復興のため国庫補助を申請すると共に、常願寺川改修のため技術者の派遣を要請しました。富山県を要請を受け、オランダ人技師デ・レイケが1ヶ月ほど調査に入ります。そして、当時の技術と予算では水源地を治めることは不可能と考え、下流の河川改修計画を立て、改修工事を始めました。



▲常願寺川の河道をまっすぐにする事で流水のエネルギーを強め、中流に堆積した土砂をその力で海まで流してしまおうと考えていたようです。



▲用水の合口化(常西合口用水の完成)
それまで川に沿っていくつも付けられていた灌漑用水の取入れ口を、上流の1ヶ所にまとめることを考えました。デ・レイケの指導によって左岸に常西合口用水が明治25年に完成しました。



このあとも再三にわたる大洪水を繰り返し、大正11年7月の豪雨による白岩堤防の破壊を機に、内務省直轄砂防事業として施工されていきます。下流の洪水を防ぐには、まずは上流の土砂くずれを防ぐことが大切だと考えたのです。当時ヨーロッパ留学から帰国した赤木正雄博士はおそらく世界最大の砂防事業であろうと決意をもたれ、50年にわたる立山砂防計画の礎を確立しました。

昭和初期の人力を中心に施工されたにもかかわらず、安全性からコンクリート強度に至るまで、当時としては超一流のものが、資材輸送の難しさや高山気象の急変、極限に近い自然条件の中での工事は幾多の困難を乗り越えて成し遂げられていきました。

のちに赤木博士は、世界最大の難工事である日本の自然条件に合った新しい工法による砂防統合計画を樹立し、国土の保全開発に多大な貢献をしたことによって文化勲章を受章されました。

今回「自然と電気」というテーマで常願寺川に着目し調査しましたが、あまりにも奥が深く、大正・昭和に至るまで砂防計画は進められました。富山は良い所、立山が守ってくれる、確かにそうではありますが、安政5年の未曾有の大洪水以来、立山の雪解け水が常願寺川に流れ、富山平野に住む人々を苦しめてきました。人々の生活を守るため、私たちの祖先が残してくれた安住の地・富山。豊富な水は水田地帯を豊かにし、河川敷には工業地帯が広がり、富山市内も発展してきました。環境庁の名水百選には8ヶ所が選ばれており、選定日本一です。

この素晴らしい自然環境、祖先が残してくれた環境を次の世代に残したいものです。

※富山県立図書館蔵書「常願寺川砂防100周年 護天涯への想い」「デ・レイケと常願寺川」「河川の歴史読本 常願寺川」参照

私たちにできる身近な節電

地球の環境を守るために、まず私たちにできる身近な節電について考えてみたいと思います。また、節電・省エネの実施は、電気代の節約にもつながります。

待機電力(待機時消費電力)を減らす

機器を使っていないのに消費される電力のこと。

私たちの周りにはTVやパソコン、空気清浄器に至るまで便利なものがあふれています。これらは、コンセントにプラグを差し込んであるだけで電力を消費してしまうものが多く(待機電力)、家庭で消費する電力のうち、**年間約6%**を占めています。

どうしたらいいか?

タイマー設定等に差しかえないものであれば、主電源を切ったり、コンセントをプラグから抜くのが望ましいです。最近では機能が充実している機器も多く、オートオフ機能が内蔵されていればそれを利用します。

★例えば、しばらく使わないポットのコンセントをプラグから抜けば年間107KWhの省エネ(約2,150円の節約)になりますし、デスクトップ型パソコンを使わないときは電源を切れば年間31.57KWhの省エネ(約690円の節約)となります。

白熱電球を取り替える

白熱電球54Wの場合 年間118KWh 約2,365円

電球形蛍光灯12Wの場合 年間26KWh 約525円

→**年間で92KWhの省エネ約1,840円の節約**

LED照明9.2Wの場合 年間20KWh 約402円

→**年間で98KWhの省エネ約1,960円の節約**

点灯時間を短くする

白熱電球54Wの場合 年間20KWhの省エネ 約394円の節約

電球形蛍光灯12Wの場合 年間5KWhの省エネ 約87円の節約

LED照明9.2Wの場合 年間3KWhの省エネ 約67円の節約

※1日6時間使用、1KWhあたり20円で換算

1つ1つは小さなことですが、合わせると大きな力(省エネ)になるという気持ちをもって、取り組んでいきたいです。
(工務部・大山)

最近の建設業界の環境について

最近の建設業界の環境は、マスコミでも報道されていますが厳しい状況です。

具体的には、建設業の人手不足がコスト増を招き、収益の悪化につながる事が懸念されています。

建設業の人手不足は、東日本大震災の復旧・復興需要から起点に強まったと言われていました。また、安倍政権の経済政策「アベノミクス」の第2の矢である財政政策とともに、住宅やビルなどの民間需要が伸びてきたことも背景にあるようです。

さらに、自民党政権は防災や古いインフラの更新など国土強靱化政策を推進しており、今後建設関連業の技術者の求人は旺盛になると思われます。

従って、建設部門の人手不足が長期化する可能性が出ています。

一方、円安傾向もあり、資材の値上げがじわじわと進んできています。資材各社は2020年の東京五輪に向けて公共投資の活発化を期待して強気の対応をしていくと思われます。本年に入り、鋼材・セメント・ケーブルなどの値上げも相次いでいます。

そのような環境の中で、大手ゼネコン各社は資材の値上がりと人件費高騰が鮮明なことから、安値受注の案件については慎重に対応されているようです。

以上、建設業界の環境は職人不足と資材の値上げによるコストアップ要因が予測されますが、当社は案件の情報を積極的に収集して、そのような環境をチャンスとして技術力の向上に努め、お取引先各位にご満足いただけるよう業務に邁進して参りますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

※日本経済新聞平成25年9月18日の記事「建設人材難、成長縛る」を参考にしました (営業企画部・小林)

★H簡単デコ★



廃油を使ったECOキャンドルです♪

<材料>

- ・廃油
- ・廃油処理剤(固めるテンプルなど)
- ・ジャムなどのビンやシリコンカップ
- ・たこ紐
- ・クレヨン
- ・爪楊枝

何色も重ねて、カラフルなキャンドル、アロマオイルを足して、香りの良いキャンドルなども作ることが出来ます。カラフルでかわいらしいので、インテリアとして飾ることができますし、停電などのいざという時には立派にキャンドルとして使えます。

うちでは今年、子どもと一緒に作って、夏休みの自由研究にしました。簡単なので、是非一度、お試しください。
クリスマスキャンドルとしてもおすすめです☆



① ビンなどの容器にクレヨンを削り入れ、爪楊枝にたこ紐を結んで容器の中に入れます。



② 鍋に廃油100mlに対して廃油処理剤大さじ1を入れて、処理剤が解けるまで温めます。



③ 温めた油を①に入れ、よくかき混ぜてクレヨンを溶かし、たこ紐をセットして固まるのを待ちます。



④ 固まったら、たこ紐を適度な長さに切って、完成です。

(総務部・清水)

当社近況報告

工事部 施工管理課

秋も深まり、遮音シートに覆われた現場内も涼しく、朝晩はむしろ寒くなってきました。

さて、以前ご紹介しましたマンションの現場ですが、躯体も15階中7階まで打ち上がり、下層部ではいよいよ内装工事が始まってきました。同じ部屋ばかりの賃貸マンションとは違い、当物件は分譲マンションであるため、一部屋ずつ購入者様のご要望に沿った形で施工する必要があります。一応共通した基本的な仕様はあるのですが、そこから大幅な変更があったり、逆に全く変更が無かったりと、内容は購入者様によって千差万別です。一見何の変更もないように見えて、細部にこだわられている部屋などもありますので、購入者様の望む通りの部屋に仕上げられるよう、注意して施工していきたいと思えます。

(施工管理課・吉田)

総務部

先日、息子のサッカーの試合で、大沢野のアイザックスポーツドームに行きました。こちらの建物は弊社で電気工事をさせていただいたこともあり、何か特別な思いを持って、使わせていただきました。

総務の仕事は工事に直接的に関わることのない裏方仕事ですが、やはり、少しでも関わらせていただいた建物に行きますと感慨深い気持ちになります。

総務部として出来ることは微力ではありますが、より素晴らしいものを残したいと尽力する「チーム新栄」の一員として、これからも、出来る限りの努力をして参ります。

(総務部・清水)



営業企画部

企画部の業務として、お客様からこの建物を建てる上で電気工事にいくらか掛かるのかという概算を依頼されます。このような場合は、平面図程度の情報しかなく、電気設備仕様については何も明記されていない場合が多いので、弊社の設計積算・施工のデータを活用し、大まかな仕様を決め工事費を算出しています。

営業活動の大事な企画提案ですので、お客様の予算に合うように提案すること、早く対応することを心がけています。

(営業企画部・伊藤)

資材課

皆さんは“運が良くなる十ヶ条”を御存知でしょうか。これを毎朝仕事を始める前に読むと、本当に“運が良くなった！”と思える事が起きるんです。私は何度もそういう体験をして感激しましたし、感謝をしました。

1から10までの言葉を素直に読むと、そうだなと思う事ばかりです。

運ばかりに頼ってはいけません。普段頑張っている仕事に運もプラスされれば、本来の実力が120%発揮出来るのではないのでしょうか。

皆さんも試しに実行してみてくださいはいかがでしょうか。

(資材課・沢崎)

★運がよくなる10ヶ条★

1. 素直である
2. プラス思考である
3. 感謝できる
4. 感動できる
5. 感激できる
6. 学ぶことができる
7. 誉めることができる
8. 親孝行である
9. つきのある人と付き合う
10. ついていと思う

社長よりご挨拶

晩秋の節、いよいよご清祥のこととお慶び申し上げます。

今年は2020年の東京オリンピック開催が決定したビッグニュースもあり、気持ちが昂った年でした。

また、私ども富山県人にとって待望の北陸新幹線の開業が27年春に迫り、現実のものとして実感できる今日この頃です。

さて、第11号の「新栄だより」の発刊時期を迎えました。本誌がお取引先各位に当社の現状をお知らせするツールとして定着するよう願っています。

「新栄だより」は当社社員の手づくりで発刊して参りましたが、今後も当社の社員がお取引先各位とコミュニケーションでできるものにしていきたく思っております。

そして、お取引先各位にご信頼を頂けるよう社員一人ひとりが平素の業務に一層邁進いたしますので、ご指導のほどよろしくお願い致します。

(代表取締役社長・清田)

発行元

株式会社新栄電設

〒930-0953 富山県富山市秋吉37-2 TEL: 076-491-5113 FAX: 076-491-5118

(編集・校正: 小林・片山・伊藤・上沢・沢崎・清水・大山・吉田) (デザイン担当: 西沢)

2013年11月8日発行